

2018年8月期 第3四半期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2018年8月期第3四半期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第3四半期決算概要	P3	～	P19
II. 2018年8月期 通期業績予想	P20	～	P23
III. 参考資料	P24	～	P26

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業：国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - ジーユー事業：国内・海外で展開するジーユー事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

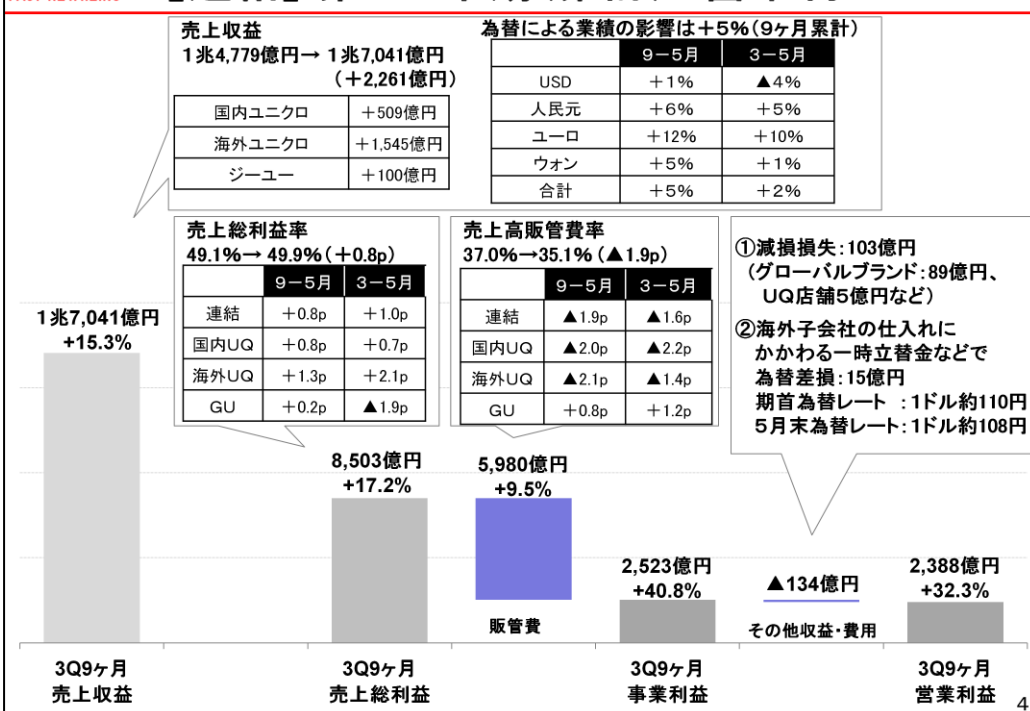
【連結】2018年8月期：第3四半期（累計）実績

**第3四半期（9ヶ月累計）は増収増益
売上収益、営業利益ともに、計画を上回る**

	1Q～3Q (2017/9～2018/5)			3Q (2018/3～2018/5)			単位：億円
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比	
売上収益 (売上比)	17,041 100.0%	14,779 100.0%	+15.3%	5,173 100.0%	4,604 100.0%	+12.4%	
売上総利益 (売上比)	8,503 49.9%	7,254 49.1%	+17.2% +0.8p	2,647 51.2%	2,312 50.2%	+14.5% +1.0p	
販管費 (売上比)	5,980 35.1%	5,461 37.0%	+9.5% ▲1.9p	1,943 37.6%	1,806 39.2%	+7.6% ▲1.6p	
事業利益 (売上比)	2,523 14.8%	1,792 12.1%	+40.8% +2.7p	703 13.6%	505 11.0%	+39.3% +2.6p	
その他収益・費用 (売上比)	▲134 -	13 0.1%	- -	▲19 -	▲5 -	- -	
営業利益 (売上比)	2,388 14.0%	1,806 12.2%	+32.3% +1.8p	684 13.2%	499 10.9%	+36.9% +2.3p	
金融収益・費用 (売上比)	▲14 -	148 1.0%	- -	38 0.7%	▲20 -	- -	
税引前四半期利益 (売上比)	2,374 13.9%	1,954 13.2%	+21.5% +0.7p	722 14.0%	478 10.4%	+51.0% +3.6p	
親会社の所有者に 帰属する四半期利益 (売上比)	1,483 8.7%	1,201 8.1%	+23.5% +0.6p	441 8.5%	228 5.0%	+93.1% +3.5p	

2018年8月期第3四半期9ヶ月累計の連結業績ですが、
売上収益は1兆7,041億円、前年同期比15.3%増、
事業そのものの収益を示す事業利益は2,523億円、同40.8%増、
営業利益は2,388億円、同32.3%増と増収増益を達成いたしました。
計画に対しては、9ヶ月累計、および第3四半期3ヶ月間でも、売上収益、
営業利益ともに計画を上回っております。

【連結】第3四半期(累計) 営業利益



まず、9ヶ月累計の連結の損益計算書のポイントをご説明いたします。

売上収益は1兆7,041億円、前年同期比2,261億円の増収となりました。
全セグメントで増収となりましたが、特に海外ユニクロ事業が1,545億円の大幅な増収となっております。

売上総利益率は49.9%と、同0.8ポイント改善しております。
これは、主に海外ユニクロ事業で1.3ポイント、国内ユニクロ事業で0.8ポイント改善したことによりです。

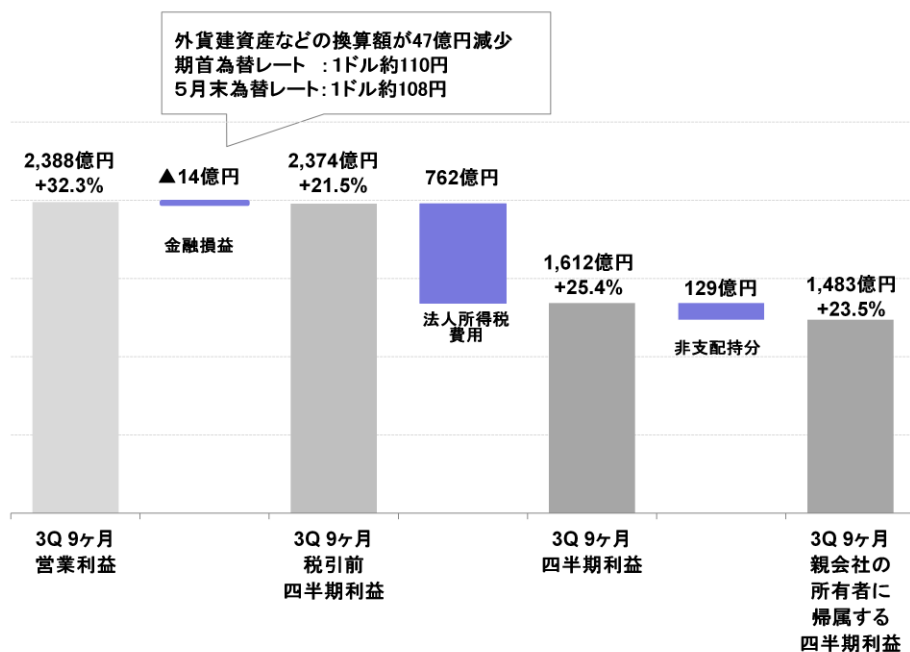
売上高販管費率は35.1%と、同1.9ポイント改善しております。
これは、主に海外ユニクロ事業で2.1ポイント、国内ユニクロ事業で2.0ポイント改善したことによりです。

事業利益は2,523億円と、同40.8%増となりました。

その他収益・費用の合計は134億円のマイナスとなっております。
これは主に、上期に計上したグローバルブランド事業の減損損失や、
5月末の為替レートが、期首に比べ円高となったことにより、海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などで為替差損が発生したことによりです。

これらの結果、営業利益は2,388億円、同32.3%増の増益となりました。

【連結】第3四半期(累計)

親会社の所有者に
帰属する四半期利益

5

次に、金融損益ですが、期首に比べ、為替が円高になったことから、外貨建資産などの換算額が減少し、金融損益はネットで14億円のマイナスとなっております。

この結果、税引前四半期利益は2,374億円と前年同期比21.5%増、親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,483億円、同23.5%増となりました。

【セグメント別】第3四半期 実績(1)

単位:億円

		1Q～3Q (2017/9～2018/5)			3Q (2018/3～2018/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
国内ユニクロ事業	売上収益	7,044	6,534	+7.8%	2,107	1,983	+6.3%
	事業利益 (売上比)	1,202 17.1%	932 14.3%	+28.9% +2.8p	314 14.9%	237 12.0%	+32.2% +2.9p
	その他収益・費用	▲ 2	▲ 6	—	▲ 0	0	—
	営業利益 (売上比)	1,200 17.0%	926 14.2%	+29.6% +2.8p	313 14.9%	238 12.0%	+31.3% +2.9p
海外ユニクロ事業	売上収益	7,160	5,615	+27.5%	2,086	1,687	+23.7%
	事業利益 (売上比)	1,125 15.7%	694 12.4%	+62.2% +3.3p	317 15.2%	195 11.6%	+61.9% +3.6p
	その他収益・費用	▲ 1	▲ 12	—	▲ 0	▲ 2	—
	営業利益 (売上比)	1,124 15.7%	681 12.1%	+65.0% +3.6p	316 15.2%	193 11.5%	+63.7% +3.7p
ジーユー事業	売上収益	1,666	1,566	+6.4%	608	588	+3.3%
	事業利益 (売上比)	149 9.0%	149 9.5%	+0.1% ▲ 0.5p	59 9.8%	75 12.8%	▲ 21.4% ▲ 3.0p
	その他収益・費用	1	▲ 1	—	▲ 0	▲ 1	—
	営業利益 (売上比)	150 9.0%	148 9.5%	+1.7% ▲ 0.5p	59 9.7%	74 12.6%	▲ 20.0% ▲ 2.9p
グローバル ブランド事業	売上収益	1,147	1,042	+10.1%	363	338	+7.4%
	事業利益 (売上比)	54 4.8%	44 4.3%	+23.4% +0.5p	21 5.9%	14 4.2%	+48.3% +1.7p
	その他収益・費用	▲ 90	▲ 1	—	▲ 0	2	—
	営業利益 (売上比)	▲ 35 —	43 4.1%	— —	21 5.8%	16 5.0%	+25.3% +0.8p

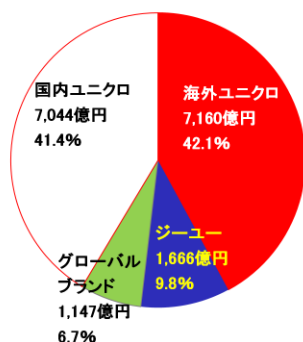
注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

6ページのスライドは、セグメント別の業績です。

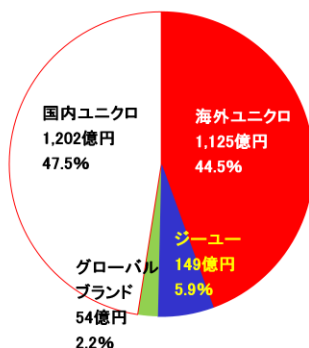
【セグメント別】第3四半期 実績(2)

**海外ユニクロ事業の売上収益が国内ユニクロを上回る
事業利益、営業利益も、国内ユニクロに迫る水準まで拡大**

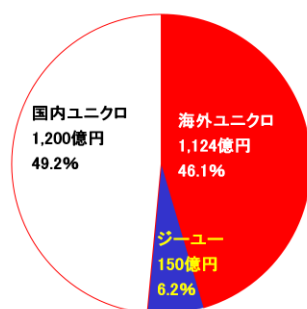
9ヶ月累計 売上収益



9ヶ月累計 事業利益



9ヶ月累計 営業利益



注：連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

第3四半期9ヶ月累計での売上収益は、海外ユニクロ事業が7,160億円と、国内ユニクロ事業を上回りました。
事業利益、営業利益についても、海外ユニクロが国内ユニクロに迫る水準まで拡大しております。

各セグメントの詳細については、次のスライドからご説明いたします。

【国内ユニクロ事業】第3四半期実績

**3Q(3ヶ月)は、計画を上回る増収増益
9ヶ月累計の営業利益は29.6%増**

単位:億円

	1Q～3Q (2017/9～2018/5)			3Q (2018/3～2018/5)		
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
売上収益 (売上比)	7,044 100.0%	6,534 100.0%	+7.8%	2,107 100.0%	1,983 100.0%	+6.3%
売上総利益 (売上比)	3,452 49.0%	3,149 48.2%	+9.6% +0.8p	1,037 49.2%	961 48.5%	+7.8% +0.7p
販管費 (売上比)	2,249 31.9%	2,216 33.9%	+1.5% ▲2.0p	722 34.3%	724 36.5%	▲0.2% ▲2.2p
事業利益 (売上比)	1,202 17.1%	932 14.3%	+28.9% +2.8p	314 14.9%	237 12.0%	+32.2% +2.9p
その他収益・費用 (売上比)	▲ 2 -	▲ 6 -	- -	▲ 0 -	0 0.0%	- -
営業利益 (売上比)	1,200 17.0%	926 14.2%	+29.6% +2.8p	313 14.9%	238 12.0%	+31.3% +2.9p

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

8

まず、国内ユニクロ事業の第3四半期3ヶ月間の業績ですが、
売上収益は2,107億円、前年同期比6.3%増、
営業利益は313億円、同31.3%増と、
計画を上回る増収増益となりました。

この結果、9ヶ月累計でも、営業利益は前年同期比29.6%増と大幅な増益となり、
好調なトレンドが続いております。

【国内ユニクロ事業】売上収益の状況

3Q(3ヶ月)既存店売上高 +5.4%

- ・3月、4月は、気温が高く推移したことから、エアリズム、UT、ドライ系のTシャツといった夏物商品の販売が好調で、前年同期比で2桁の増収
- ・5月は、気温が低い日が多かったことから、夏物商品の需要が若干弱まり、既存店売上高は減収
- ・客数 +0.5%、客単価+4.9%
 - ✓ 客単価の増加:ジーンズ、感動パンツ、スカートなどの販売が好調で、比較的単価の高い商品の売上構成比が高まったため
- ・Eコマースの売上は164億円、+33.1%、売上構成比は6.2%から7.8%に上昇
 - ✓ 4月3日にスタートした、Eコマースでオーダーした商品の「店舗受取り送料無料サービス」は、大変ご好評をいただいております、Eコマースの順調な拡大に寄与

直営既存店 前年比	2018年8月期					
	上期累計	3月	4月	5月	3Q(3ヶ月)	9ヶ月累計
売上高	+8.4%	+13.0%	+10.0%	▲2.7%	+5.4%	+7.5%
客数	+4.2%	+7.7%	+4.7%	▲6.9%	+0.5%	+3.0%
客単価	+4.0%	+4.9%	+5.1%	+4.5%	+4.9%	+4.3%

注：既存店売上高にはEコマースの売が含まれております。

9

国内ユニクロ事業の第3四半期3ヶ月間の既存店売上高は、前年同期比5.4%の増収となりました。

3月、4月は、気温が高く推移したことから、エアリズム、UT、ドライ系のTシャツといった夏物商品の販売が好調で、前年同期比で2桁増収を達成いたしました。5月は、月を通して気温が低い日が多かったことから、夏物商品の需要が若干弱まり、既存店売上高は減収に転じました。

3ヶ月間の既存店売上高5.4%増の内訳は、客数で0.5%の増加、客単価で4.9%の増加となっております。

客単価が増加した要因は、ジーンズ、感動パンツ、スカートなどの販売が好調で、比較的単価の高い商品の売上構成比が高まったことによります。

Eコマースの売上は164億円、同33.1%増と好調に推移し、売上構成比は6.2%から7.8%に上昇いたしました。

特に、4月3日にスタートした、Eコマースでオーダーした商品の「店舗受取り送料無料サービス」は、大変ご好評をいただいております、Eコマースの順調な拡大に寄与しております。

【国内ユニクロ事業】売上総利益率

3Q(3ヶ月)売上総利益率49.2%（前年同期比+0.7p）
計画を上回る水準

- ・売上好調で、値引きロスが減少、値引率が低下したため
- ・社内の為替レートの円安傾向は継続、原価率は上昇も、その影響は値引率の改善により吸収

	2017年8月期	2018年8月期	
			前期同期比
3Q(3ヶ月)	48.5%	49.2%	+0.7p
9ヶ月累計	48.2%	49.0%	+0.8p

10

次に、国内ユニクロ事業の第3四半期3ヶ月間の売上総利益率ですが、49.2%と、前年同期比0.7ポイント改善いたしました。これは、計画を上回る水準です。

粗利益率が改善した要因は、売上好調により、値引きロスが減少したことで、値引率が低下したためです。

社内の為替レートの円安傾向は続いており、原価率は上昇しておりますが、その影響は値引率の改善により吸収できております。

【国内ユニクロ事業】販管費

3Q(3ヶ月) 売上高販管費率 34.3% (前年同期比▲2.2p)
金額ベース、売上比率ともに計画以上に削減

- ・広告宣伝費: チラシ、新聞広告、店内販促物の効率化
- ・物流費: 店舗関連の物流費が大幅に削減。サプライチェーン全体の商品量を可視化し、在庫の適正なコントロールができたこと、倉庫オペレーションの効率化が進んだ
Eコマース関連の物流費は、Eコマース販売の拡大、有明倉庫のEコマース専用化に伴うコスト増により、金額、比率ともに増加
- ・人件費: 売上が計画を上ブレしたこと、RFIDの電子タグを活用し、店舗での生産性が向上
- ・減価償却費: 退店時の原状回復費用である資産除去債務の再評価による追加引き当て

	9ヶ月累計 (前年同期比)	3Q(3ヶ月) (前年同期比)
販管費合計	▲2.0p	▲2.2p
広告宣伝費	▲0.9p	▲1.3p
物流費	▲0.6p	▲0.4p
人件費	▲0.3p	▲0.3p
その他経費	▲0.4p	▲0.1p
賃借料	▲0.2p	▲0.1p
減価償却費	+0.2p	+0.2p

11

売上高販管費率は34.3%と、前年同期比2.2ポイント改善いたしました。
 経費削減を継続していることで、金額ベース、売上比率ともに計画以上に削減できております。

まず広告宣伝費比率ですが、前年同期比1.3ポイント改善いたしました。
 これは、チラシ、新聞広告、店内販促物の効率化によるものです。

物流費比率は、同0.4ポイント改善いたしました。
 これは、店舗関連の物流費が大幅に削減できたことによりです。
 サプライチェーン全体の商品量を可視化したことにより、在庫の適正な
 コントロールができたことに加え、倉庫オペレーションの効率化が進んだこと
 によるものです。

一方、Eコマース関連の物流費は、Eコマース販売の拡大、有明倉庫の
 Eコマース専用化に伴うコスト増により、金額、比率ともに増加しております。

人件費比率は、同0.3ポイント改善いたしました。
 これは、売上が計画を上ブレしたことによる比率改善に加え、RFIDの電子タグの
 活用により、店舗での生産性が向上したためです。
 ユニクロでは、RFIDの電子タグを2017年秋冬商品から導入し、現在では、
 ほぼすべての商品に電子タグの貼り付けが進んでおります。これに加え、
 2018年5月末までに、すべての店舗に、電子タグの読み取り機器の導入が完了
 したことで、レジ作業の生産性をあげることができました。また、お客様から
 問い合わせのあった商品をすばやく探せるなど、活用が進んでおります。

3Q(3ヶ月)は計画を大きく上回る、大幅な増収増益

- ・3Q(3ヶ月)も、上期と同水準の増益率が続く
- ・営業利益率は3.7p改善: 値引きに頼らない商売への転換や販売計画の精度の向上により、粗利益率が2.1ポイント改善、経費削減を推進したことにより、経費比率が1.4ポイント改善
- ・グレーターチャイナ、韓国、東南アジア・オセアニア地区が好調
- ・米国の赤字幅は、計画通り、前年同期比で縮小
- ・9ヶ月累計の営業利益は65.0%増、国内ユニクロに迫る水準

単位: 億円

		1Q～3Q (2017/9～2018/5)			3Q (2018/3～2018/5)		
		9ヶ月累計実績	前年実績	前年同期比	3ヶ月実績	前年実績	前年同期比
海外ユニクロ事業	売上収益	7,160	5,615	+27.5%	2,086	1,687	+23.7%
	事業利益 (売上比)	1,125 15.7%	694 12.4%	+62.2% +3.3p	317 15.2%	195 11.6%	+61.9% +3.6p
	その他収益・費用	▲ 1	▲ 12	-	▲ 0	▲ 2	-
	営業利益 (売上比)	1,124 15.7%	681 12.1%	+65.0% +3.6p	316 15.2%	193 11.5%	+63.7% +3.7p

12

次に海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

第3四半期3ヶ月間の売上収益は2,086億円、前年同期比23.7%増、営業利益は上期と同水準の増益率が続き、316億円、同63.7%増と、計画を大きく上回る、大幅な増収増益となりました。

第3四半期も引き続き、営業利益率は3.7ポイント改善いたしました。これは、値引きに頼らない商売への転換や販売計画の精度の向上により、粗利益率が2.1ポイント改善したこと、経費削減を推進したことにより、経費比率が1.4ポイント改善したことによります。

エリア別では、グレーターチャイナ、韓国、東南アジア・オセアニア地区が好調で、営業利益は計画を大幅に上回りました。米国の赤字幅も、計画通り、前年同期比で縮小いたしました。

なお、9ヶ月累計の営業利益は1,124億円、前年同期比65.0%増の大幅な増益で、国内ユニクロの1,200億円に迫る水準にまで達しております。

グレートチャイナ:計画を大きく上回る大幅な増益

【中国大陸】計画を大きく上回る、大幅な増益を達成

- ・3月から気温が高く推移したことにより、春夏商品の立ち上がりが好調。「ジャンプ」や「ブリザード」などの新しい人気コンテンツが充実したUTや、感動パンツ・ジャケットなどのニュース発信が効果的だったことから、3ヶ月間の既存店売上高は2桁増収
- ・値引率が抑えられたことによる粗利益率の改善、経費削減の継続により、営業利益は大幅な増益
- ・Eコマース販売は、2桁増収が継続

【香港、台湾】粗利益率の改善により、計画を上回る増益を達成

- ・香港は、UTなどのTシャツ類の販売が好調で、3Q(3ヶ月)の既存店売上高は増収
- ・台湾は、夏物商品の欠品による機会ロスが生じ、既存店売上高は若干の減収

韓国:計画を大きく上回る、大幅な増益

- ・3月は気温が高く推移し、夏物商品の販売が好調。4月以降気温が低下したことに加え、昨年の既存店売上高の伸び率が高かった影響により、第3四半期3ヶ月間の既存店売上高は、若干の増収にとどまる
- ・マーケティングと売り場が連動した商売ができたことで、値引率が低下、粗利益率が改善
- ・経費もコントロールを継続

13

次に、各エリアの第3四半期3ヶ月間の業績トレンドについてご説明いたします。

グレートチャイナの業績は、計画を大きく上回る、大幅な増益となりました。

まず、中国大陸ですが、計画を大きく上回る、大幅な増益を達成いたしました。3月から気温が高く推移したことにより、春夏商品の立ち上がりが好調となりました。これに加え、「ジャンプ」や「ブリザード」などの新しい人気コンテンツが充実したUTや、感動パンツ・ジャケットなどのニュース発信が効果的だったことから、3ヶ月間の既存店売上高は2桁増収となりました。また、値引率が抑えられたことによる粗利益率の改善や、経費削減の継続で、営業利益は大幅な増益となりました。なお、Eコマース販売も、2桁増収が継続しております。

韓国は、計画を大きく上回る、大幅な増益となりました。

3月は気温が高く推移し、夏物商品の販売が好調でした。しかし、4月以降、気温が低下したことに加え、昨年の既存店売上高の伸び率が高かった影響により、第3四半期3ヶ月間の既存店売上高は、若干の増収にとどまりました。収益面では、マーケティングと売り場が連動した商売ができたことで、値引率が低下し、粗利益率が改善しております。経費もコントロールを継続できております。

東南アジア・オセアニア:計画を大きく上回る、大幅な増益

- ・UT、ポロシャツ、ショートパンツの販売が好調で、既存店売上高の2桁増収が続く
- ・すべての国で好調。特にタイ、フィリピン、インドネシアでは高い売上の伸びが継続
- ・売上が好調で、粗利益率、経費比率が改善

北米:米国は計画通り、赤字幅が縮小

- ・米国は、グローバルヘッドクォーターと連動して、商品構成を見直したことで、販売計画の精度が高まり、既存店売上高は増収。Eコマース販売の高い伸び率も継続
- ・米国事業では、本部機能を東海岸に加えて西海岸にも設置。これにより、今後はこれまで以上に地域に合った商品構成や、よりきめ細かい店舗運営をおこない、来期の黒字化をめざしていく

欧州:計画を上回る増収増益

- ・既存店売上高は増収で、特に、ロシアが2桁増収と牽引
- ・第3四半期3ヶ月間で、ロシアで4店舗、フランスで3店舗出店
- ・2018年8月には、スウェーデンのストックホルム、9月にはオランダのアムステルダムに初出店の予定

14

東南アジア・オセアニア地区も、営業利益は計画を大きく上回る、大幅な増益となりました。

東南アジア地区は、UT、ポロシャツ、ショートパンツの販売が好調で、既存店売上高の2桁増収が続いております。すべての国で好調でしたが、特にタイ、フィリピン、インドネシアでは高い売上の伸びが続いています。売上が好調だったことから、粗利益率、経費比率ともに改善いたしました。

米国は、計画通り、赤字幅を縮小することができました。グローバルヘッドクォーターと連動して、商品構成を見直したことで、販売計画の精度が高まり、既存店売上高は、引き続き増収となりました。Eコマース販売の高い伸び率も継続しております。米国事業では、本部機能を、東海岸に加えて西海岸にも設置いたしました。これにより、今後はこれまで以上に地域に合った商品構成や、よりきめ細かい店舗運営をおこなうことで、来期の黒字化をめざしていきます。

欧州は、計画を上回る増収増益となりました。欧州全体の既存店売上高は増収で、特に、ロシアが2桁増収と牽引しております。出店に関しては、第3四半期3ヶ月間で、ロシアで4店舗、フランスで3店舗出店いたしました。2018年8月には、スウェーデンのストックホルム、9月にはオランダのアムステルダムに初出店の予定です。

【ジーユー事業】第3四半期(3ヶ月)実績

3Q(3ヶ月) 営業利益は計画を大きく下回り、減益

- ・3Q(3ヶ月)の既存店売上高は、計画を下回り、減収
 - ✓ 春夏のキャンペーンで打ち出したマドラスチェックのボトムス、トップスや、ロングスカートなどの商品の販売が不振で、計画を大幅に下回った
 - ✓ 品番数を大幅に増やしたことで、ドット柄、ストライプ柄のシャツ・ブラウス、ワンピース、ハイウエストストレートジーンズといった売れ筋商品が欠品
- ・売上が計画を大幅に下回ったため、早期に値引販売を強化し、在庫処分を進めたことにより、3Q(3ヶ月)の粗利益率は1.9ポイント低下、経費比率も1.2ポイント上昇

単位:億円

		1Q～3Q (2017/9～2018/5)			3Q (2018/3～2018/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
ジーユー 事業	売上収益	1,666	1,566	+6.4%	608	588	+3.3%
	事業利益 (売上比)	149 9.0%	149 9.5%	+0.1% ▲0.5p	59 9.8%	75 12.8%	▲21.4% ▲3.0p
	その他収益・費用	1	▲1	-	▲0	▲1	-
	営業利益 (売上比)	150 9.0%	148 9.5%	+1.7% ▲0.5p	59 9.7%	74 12.6%	▲20.0% ▲2.9p

15

次に、ジーユー事業についてご説明いたします。

第3四半期3ヶ月間での売上収益は608億円、前年同期比3.3%増、営業利益は59億円、同20.0%減となりました。

第3四半期3ヶ月間の営業利益が計画を大きく下回り、減益となった結果、9ヶ月累計では、前年同期比で1.7%増と、若干の増益にとどまっております。

ジーユー事業の第3四半期3ヶ月間の既存店売上高は、計画を下回り、減収となりました。

これは、春夏のトレンド商品としてキャンペーンで打ち出したマドラスチェックのボトムス、トップスや、ロングスカートなどの商品の販売が不振で、計画を大幅に下回ったことによります。一方で、品番数を大幅に増やしたことで、ドット柄、ストライプ柄のシャツ・ブラウス、ワンピース、ハイウエストストレートジーンズといった売れ筋商品の欠品が発生いたしました。

売上が計画を大幅に下回ったため、早期に値引販売を強化し、在庫処分を進めたことにより、第3四半期3ヶ月間の粗利益率は1.9ポイント低下いたしました。また、経費比率も1.2ポイント上昇しております。

3Q(3ヶ月) 営業利益はセオリー事業に支えられ、増益 計画比では若干下回る

・9ヶ月累計の営業利益は35億円の赤字。上期にコントワー・デ・コトニエ事業などで減損損失を89億円計上したことによる。事業利益は54億円と、前年同期比23.4%増

【セオリー事業】

- ・ほぼ計画通りの増収増益。9ヶ月累計でも、日米ともに増収増益と、堅調な業績が続く
- ・日本で展開しているPLST(プラステ)ブランドも、順調に成長

【コントワー・デ・コトニエ事業】

- ・既存店売上高が若干の減収
- ・営業利益も計画を下回り、赤字幅が拡大

【プリンセス タム・タム事業、J Brand事業】赤字が継続

単位:億円

		1Q～3Q (2017/9～2018/5)			3Q (2018/3～2018/5)		
		9ヶ月累計実績	前年実績	前年同期比	3ヶ月実績	前年実績	前年同期比
グローバルブランド事業	売上収益	1,147	1,042	+10.1%	363	338	+7.4%
	事業利益 (売上比)	54 4.8%	44 4.3%	+23.4% +0.5p	21 5.9%	14 4.2%	+48.3% +1.7p
	その他収益・費用	▲ 90	▲ 1	-	▲ 0	2	-
	営業利益 (売上比)	▲ 35 -	43 4.1%	-	21 5.8%	16 5.0%	+25.3% +0.8p

16

次に、グローバルブランド事業についてご説明いたします。

第3四半期3ヶ月間での売上収益は363億円、前年同期比7.4%増、
営業利益は21億円、同25.3%増と、セオリー事業に支えられ、増益を達成
いたしました。

ただし、コントワー・デ・コトニエ事業の不振が継続していることから、計画比では
若干下回っております。

9ヶ月累計の営業利益は35億円の赤字となっておりますが、これは、上期に
コントワー・デ・コトニエ事業などで減損損失を89億円計上したことによりです。
事業そのものの収益を示す事業利益は54億円と、前年同期比23.4%増となっ
ております。

第3四半期3ヶ月間のセオリー事業はほぼ計画通りの増収増益となりました。
9ヶ月累計でも、日米ともに増収増益と、堅調な業績が続いております。
日本で展開しているPLST(プラステ)ブランドも、順調に成長しております。

第3四半期3ヶ月間のコントワー・デ・コトニエ事業は、既存店売上高が若干の減収、
営業利益も計画を下回り、赤字幅が拡大いたしました。
プリンセス タム・タム事業、J Brand事業は、赤字が継続しております。

【連結】2018年5月末 B/S

単位：億円

	2017年5月末	2017年8月末	2018年5月末	前年同期末比
資産合計	14,019	13,884	16,488	+2,469
流動資産	10,951	10,775	13,144	+2,193
非流動資産	3,067	3,108	3,343	+276
負債合計	6,405	6,264	7,717	+1,312
資本合計	7,613	7,620	8,770	+1,156

17

次に、2018年5月末のバランスシートについてご説明いたします。

資産合計は1兆6,488億円と、前年同期末比2,469億円増加、
負債合計は7,717億円と、同1,312億円増加、
資本合計は8,770億円と、同1,156億円増加いたしました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)**流動資産の増加 +2,193億円(1兆951億円⇒1兆3,144億円)**

- ・現金及び現金同等物の増加: +2,909億円(5,674億円⇒8,583億円)
営業キャッシュ・フローの増加、3ヶ月超の定期預金の取り崩し
- ・その他の短期金融資産の減少: ▲1,639億円(1,947億円⇒308億円)
3ヶ月超の定期預金の取り崩し
- ・たな卸資産の増加: +455億円(2,291億円⇒2,746億円)
【国内UQ】+62億円 夏物商品の増産、秋物商品の早期立ち上げによる
【海外UQ】+326億円 店舗数が138店増加、秋物商品の早期立ち上げによる
【GU】+45億円 春夏商品の販売不振による
【グローバルブランド】+18億円

負債の増加 +1,312億円(6,405億円⇒7,717億円)

- ・デリバティブ金融負債の増加: +208億円(37億円⇒246億円)
保有する一部の為替予約のレートが、5月末の為替レートより円安となったため
ヘッジ会計を適用していることから損益への影響はない

まず、流動資産は前年同期末比2,193億円増加いたしました。

現金及び現金同等物は、同2,909億円増加いたしました。

これは、営業キャッシュ・フローの増加および3ヶ月超の定期預金の取り崩しによるものです。

定期預金を取り崩したことで、その他の短期金融資産は、同1,639億円減少しております。

たな卸資産は、同455億円増加いたしました。

国内ユニクロ事業は、夏物商品の増産、および秋物商品の早期立ち上げにより、同62億円増加いたしました。

海外ユニクロ事業は、店舗数が前年同期末比138店舗増と、事業を拡大していること、秋物商品の早期立ち上げに伴い、同326億円増加いたしました。

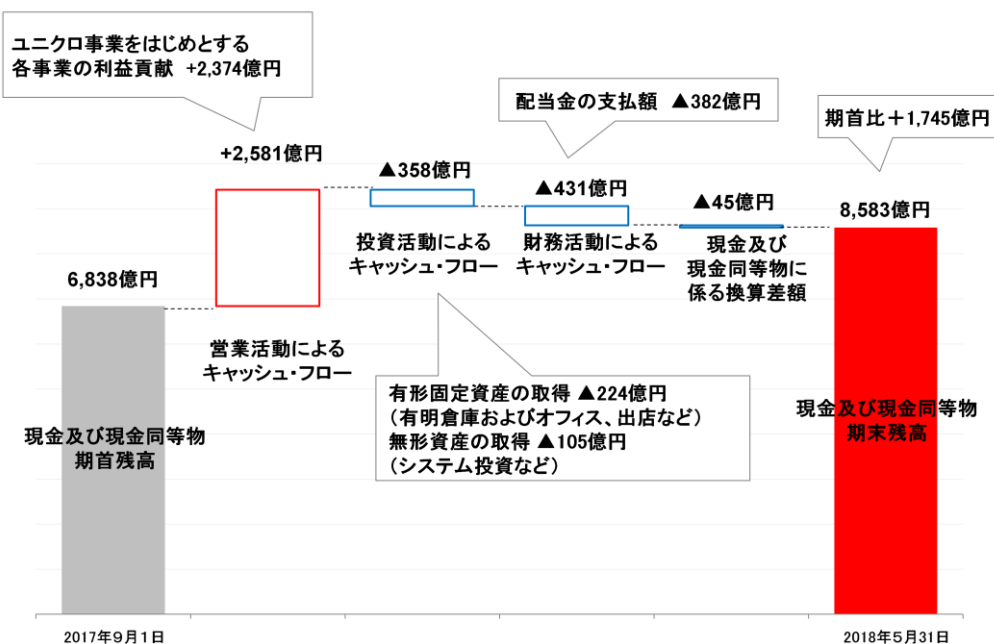
ジーユー事業は、春夏商品の販売不振により、同45億円増加しております。

次に、負債ですが、同1,312億円増加いたしました。

デリバティブ金融負債は、同208億円増加しております。

これは、保有する一部の為替予約のレートが、5月末の為替レートより円安となったことによりです。

FAST RETAILING **【連結】第3四半期(9ヶ月累計)キャッシュ・フロー**



19

次に、第3四半期累計のキャッシュ・フローですが、
営業活動によるキャッシュ・フローは、2,581億円の収入、
投資活動によるキャッシュ・フローは、358億円の支出、
財務活動によるキャッシュ・フローは、431億円の支出となった結果、
2018年5月末における現金及び現金同等物の期末残高は8,583億円となりました。

【連結】2018年8月期予想 通期業績

**営業利益は過去最高益を見込む
通期の業績予想は、直近予想から変更せず**

売上収益 : 2兆1,100億円 前期比 +13.3%
 営業利益 : 2,250億円 前期比 +27.5%
 親会社の所有者に
 帰属する当期利益 : 1,300億円 前期比 +9.0%

	2017年8月期	2018年8月期		2018年8月期
	通期実績	通期予想 (7/12)	前期比	3Q9ヶ月 実績
売上収益 (売上比)	18,619 100.0%	21,100 100.0%	+13.3%	17,041 100.0%
事業利益 (売上比)	1,840 9.9%	2,450 11.6%	+33.1% +1.7p	2,523 14.8%
その他収益・費用	▲76	▲200	-	▲134
営業利益 (売上比)	1,764 9.5%	2,250 10.7%	+27.5% +1.2p	2,388 14.0%
金融収益・費用	169	▲80	-	▲14
税引前利益 (売上比)	1,933 10.4%	2,170 10.3%	+12.2% ▲0.1p	2,374 13.9%
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,192 6.4%	1,300 6.2%	+9.0% ▲0.2p	1,483 8.7%

単位：億円

20

次に、2018年8月期の通期業績予想について、ご説明いたします。
 売上収益、営業利益ともに、過去最高の業績を見込んでおります。

第3四半期9ヶ月累計は、ご説明の通り、海外ユニクロ事業、国内ユニクロ事業が計画を上回る好調な業績となっていることから、連結ベースでも計画を上回る強含みの進捗となっております。

ただし、ジーユー事業は第3四半期に販売が不振で減益となったことから、第4四半期も減益と、計画を下回る見込みです。また、国内ユニクロ事業は、第4四半期に夏物処分を進めるため、値引率の拡大を見込んでおります。このような要因から、現時点では、通期の業績予想は4月に発表した直近予想から変更しておりません。

2018年8月末の為替レートは106円を想定し、金融収益・費用は80億円のマイナスを見込んでおります。

なお、第4四半期3ヶ月間の営業利益は、赤字の見込みとなっておりますが、これは、例年通り、ファーストリテイリング単体の業績が赤字になることに加え、事業規模がまだ小さい事業も赤字となる見込みのためです。

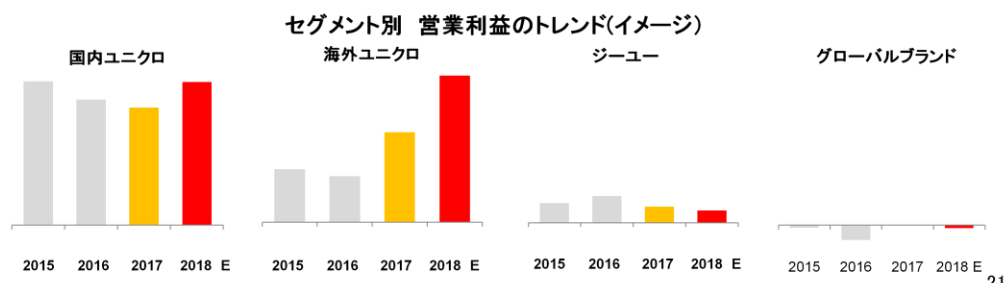
2018年8月期 各事業の通期業績予想(1)

海外ユニクロ事業:通期は大幅な増収増益を見込む

- ・4Qはグレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区、韓国を中心に好調な業績が継続
- ・北米は、4Qも赤字幅が縮小し、通期では計画通り赤字幅が半減する予想
- ・通期の業績は、直近予想を上回る大幅な増収増益を見込む

国内ユニクロ事業:4Qは減益も、通期は大幅な増益予想

- ・4Q3ヶ月間は、前年同期比で減益を見込む
- ・6月の既存店売上高が減収、7月も天候不順により計画を下回るトレンドが継続
夏物商品を中心に、値引率の拡大を見込む。秋物商品の早期立ち上げに伴う物流費増加、
広告宣伝費の増加により、経費比率も上ブレの見込み
- ・下期の営業利益は直近予想通り、若干の増益、通期は大幅な増益を見込む



次に、セグメント別の通期の業績予想についてご説明いたします。

まず、海外ユニクロ事業ですが、第4四半期も、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区、韓国を中心に好調な業績が継続する見込みです。北米は、第4四半期も赤字幅が縮小し、通期では計画通り赤字幅が半減する予想です。この結果、海外ユニクロ事業の通期の業績は、直近予想を上回る大幅な増収増益を見込んでおります。

国内ユニクロ事業の第3四半期9ヶ月累計は、売上、利益ともに計画を上回る好調な業績となっております。ただし、第4四半期3ヶ月間は、前年同期比で減益を見込んでおります。これは、6月の既存店売上高が減収となったこと、7月も西日本豪雨などの天候不順により、計画を下回る売上トレンドが継続していることから、夏物商品を中心に、値引率の拡大を見込んでいるためです。また、秋物商品の早期立ち上げに伴い、物流費が計画以上に増えること、広告宣伝費の増加により、経費比率も計画に対して上ブレする見込みです。この結果、下期の営業利益は直近予想通り、若干の増益、通期の営業利益は大幅な増益を見込んでいます。

ジーユー事業：下期、通期ともに減益を見込む

- ・4Qは、シーズン末の在庫処分が増え、粗利益率が低下、赤字幅が拡大する見込み
- ・この結果、下期、通期ともに減益となることを見込む
- ・業績回復に向けての来期の取り組み：
 - ①商品構成の見直し
 - ✓ 防寒衣料、デニム、Tシャツ、ラウンジウェアといった実需商品の割合を増し、これらの実需商品の中にもジーユーらしいトレンドの要素を取り入れる
 - ✓ トrend商品の品番数を大幅に絞ると同時に、よりマストrend商品にフォーカス
 - ✓ TVCMを再開するなど、マーケティングを強化
 - ✓ 品番数を絞ることによる効率化、デジタル化を進めることで、人時生産性の改善
 - ②有明プロジェクトを本格的に進め、サプライチェーン全体を見直し、「情報製造小売業」へ企業構造を変革
 - ✓ お客様のニーズをいち早くキャッチ、分析し、商品企画や数量計画に反映できる体制へ構造を変える
 - ✓ 素材調達や生産プロセスの見直しにより、圧倒的な低価格をめざす

グローバルブランド事業：上期に減損損失を計上したため、通期の営業利益は直近予想通り、赤字の見込み

- ・通期のセオリー事業は増収増益、コントワー・デ・コトニエ事業は赤字幅が拡大、プリンセス タム・タム事業はほぼ前年並みの赤字、J Brand事業は赤字幅が縮小

22

ジーユー事業は、春夏商品の販売に苦戦していることから、第4四半期は、シーズン末の在庫処分が増え、粗利益率が低下することを見込んでおります。第4四半期は、単価の低い夏物商品が中心であることに加え、処分期のため、売上規模が小さく、期初から赤字を見込んでおりましたが、さらに赤字幅が拡大する見込みです。この結果、下期、通期ともに減益となることを見込んでおります。

ジーユー事業の業績回復に向けての取り組みとしては、商品構成の見直しを行っていきます。まず、防寒衣料、デニム、Tシャツ、ラウンジウェアといった実需商品の割合を増やします。また、これらの実需商品の中にもジーユーらしいトレンドの要素を取り入れることで、お客様の需要に 대응していきます。次に、trend商品については、品番数を大幅に絞ると同時に、よりマストrend商品にフォーカスしていきます。また、TVCMを再開するなど、マーケティングを強化していきます。さらに、品番数を絞ることによる効率化や、デジタル化を進めることで、人時生産性の改善を図っていきます。

これらに加え、今後はジーユーも有明プロジェクトを本格的に進め、企画・素材調達・生産・物流・販売などのサプライチェーン全体の見直しを行い、「情報製造小売業」へ企業構造を変革していきます。有明プロジェクトによって、お客様のニーズをいち早くキャッチ、分析し、商品企画や数量計画に反映できる体制へ構造を変えていきます。また、素材調達や生産プロセスの見直しにより、圧倒的な低価格をめざします。

グローバルブランド事業は、上期に減損損失を計上したため、通期の営業利益は直近予想通り、赤字となる見込みです。通期のセオリー事業は増収増益、コントワー・デ・コトニエ事業は赤字幅が拡大、プリンセス タム・タム事業は、ほぼ前年並みの赤字、J Brand事業は赤字幅が縮小する見込みです。

2018年8月期 配当金予想

期末配当金 200円を予定

年間配当金 400円を予想

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2016年8月期	185円	165円	350円
2017年8月期	175円	175円	350円
2018年8月期（7/12予想）※	200円	200円	400円
前年比	+25円	+25円	+50円

※ 2018年8月期の中間配当金はすでに実施済み。期末配当については10月11日開催の取締役会にて決議する予定です。なお、業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、期末配当金額を変更することがあります。

最後に配当金ですが、すでに実施した1株当たり中間配当金200円と、期末配当金200円をあわせて、年間配当金400円、前期比50円の増配を予想しております。

以上で、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

＜参考資料＞ 連結対象事業別出退店 実績

【単位：店舗】	17年8月期	2018年8月期(2017/9～2018/5)実績				2018年8月期(2017/9～2018/8)予想			
	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,920	150	28	+122	2,042	196	31	+165	2,085
国内ユニクロ事業：※	831	18	16	+2	833	18	19	▲1	830
直営店	790	15	15	0	790	15	18	▲3	787
大型店	209	9	3	+6	215	9	3	+6	215
標準店等	581	6	12	▲6	575	6	15	▲9	572
FC	41	3	1	+2	43	3	1	+2	43
海外ユニクロ事業：	1,089	132	12	+120	1,209	178	12	+166	1,255
中国	555	63	10	+53	608	96	10	+86	641
香港	25	3	0	+3	28	3	0	+3	28
台湾	65	2	0	+2	67	3	0	+3	68
韓国	179	8	1	+7	186	8	1	+7	186
シンガポール	24	2	0	+2	26	2	0	+2	26
マレーシア	41	5	0	+5	46	7	0	+7	48
タイ	34	5	0	+5	39	6	0	+6	40
フィリピン	40	10	0	+10	50	11	0	+11	51
インドネシア	12	6	0	+6	18	7	0	+7	19
オーストラリア	12	2	0	+2	14	3	0	+3	15
米国	44	4	1	+3	47	6	1	+5	49
カナダ	2	3	0	+3	5	3	0	+3	5
英国	10	1	0	+1	11	1	0	+1	11
フランス	19	6	0	+6	25	6	0	+6	25
ロシア	20	9	0	+9	29	12	0	+12	32
ドイツ	5	0	0	0	5	0	0	0	5
ベルギー	2	1	0	+1	3	1	0	+1	3
スペイン	0	2	0	+2	2	2	0	+2	2
スウェーデン	0	0	0	0	0	1	0	+1	1
ジーユー事業	372	29	9	+20	392	30	9	+21	393
グローバルブランド事業合計	1,002	34	33	+1	1,003	36	49	▲13	989
セオリー事業※	538	25	17	+8	546	27	29	▲2	536
コントワー・デ・コトニエ事業※	333	7	12	▲5	328	7	14	▲7	326
ブリンセス・タム・タム事業※	131	2	4	▲2	129	2	6	▲4	127
総 合 計	3,294	213	70	+143	3,437	262	89	+173	3,467

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まない ※フランチャイズ店を含む

＜参考資料＞為替レート

連結決算取込 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2017年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)実績	109.8	118.5	138.1	16.1	9.6
2018年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)実績	110.4	132.5	150.0	17.0	10.1
2017年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	110.1	120.7	139.7	16.1	9.7
2018年8月期 通期(12ヶ月平均)予想	110.0	130.0	146.0	16.7	10.0

バランスシート適用 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2017年8月期 第3四半期末為替レート 実績	111.0	123.9	142.2	16.3	9.9
2018年8月期 第3四半期末為替レート 実績	108.7	126.7	144.6	17.0	10.1
2017年8月期 期末為替レート 実績	110.4	131.3	142.7	16.7	9.8
2018年8月期 期末為替レート 予想	106.2	130.5	148.8	16.9	9.9

＜参考資料＞設備投資、減価償却費

設備投資・減価償却費

単位：億円

	設備投資						減価償却費
	国内 ユニクロ	海外 ユニクロ	ジーユー	グローバル ブランド	システム他	合計	
2017年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	53	160	59	21	150	446	275
2018年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	104	176	42	21	160	506	329
2017年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	66	243	76	29	181	597	396
2018年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	110	269	54	28	239	700	463